北海道医療新聞
5月26日
2025年・2560号
毎週月曜日発行

肺がん手術・リハビリ連携「RING」

函館五稜郭・高橋 術後合併症やHADに効果

函館市の函館五稜郭病院（高田竹人理事長、中田智明院長・480床）と高橋病院（高橋肇院長・119床）は、肺がん手術とリハビリテーションの連携モデル「RING（Regional Integrated Network for Goals）」を運用。術後の合併症や入院関連機能障害（HAD）を予防するなど、スムーズな自宅退院を実現している。

高齢の肺がん患者は、手術による身体的侵襲に加え、入院を契機に、ADLの低下を引き起こすHADが問題視されている。こうした状況に対応するため、急性期病院である函館五稜郭病院と、地域包括ケア・回復期リハ病床を持つ高橋病院が連携し、高齢肺がん患者に対する術前の体力向上トレーニングを実施している。

これまで、27人の患者が連携支援を受け、函館五稜郭病院で行った肺がん手術の4分の1が、高橋病院を経由して行われてきた。また、連携過程でACPを取り入れることで、患者の意思を尊重した医療・ケアの選択も行い、治療後の生活を見据えた支援につながっている。

RINGの名称は、在宅（患者）・函館五稜郭病院・高橋病院、さらに多職種が一つの輪としてつながるイメージが込められている。患者やその家族がゴールを目指せるような、地域一体のネットワークを表現したという。

取り組みは、岡山県の倉敷中央病院からも問い合わせがあったといい、高齢化が進み、医療資源が限られた地域でも、外科手術と周術期ケアを両立させる新たな地域完結型モデルとして、全国展開を視野に情報交換を進めていきたい考えだ。